山とスポーツクライミング情報誌

登山月報

JMSCA 登山月報　第664号　令和６年７月15日発行

「富山湾（岩瀬浜）から望む立山連峰」写真撮影　富山県山岳連盟 高志山の会 桐沢幸雄

ご挨拶　会長　蛭田 伸一…… 2
第60回海外登山技術研究会 2024 …… 3
SAGA 2024 スポーツクライミング競技リハーサル大会 …… 4
第33回オリンピック競技大会（2024/パリ）TEAM JAPAN …… 5
Enjoy Climbing …… 6
静岡県山岳連盟自然保護委員会のSDGｓな活動 …… 7
令和５年度　UIAA公認上級夏山リーダー検定会、講習会開催報告… 8
令和６年度全国指導委員長会議及びスポーツクライミング代表者連絡会議（ＳＣ合同）… 8
JMSCA、表紙のことば …… 9

No.664

ご挨拶

平素より当協会の活動に対しまして、格別のご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。この度、私は日本山岳・スポーツクライミング協会の会長に就任いたしました。これからも当協会の発展に尽力し、ご支援に感謝しつつ、一層の努力をしてまいる所存でございます。

当協会は、登山、スポーツクライミング、そしてスキーモの三つの事業を行っております。登山は健康を促進し、生活に潤いを与え、生きがいを見つける素晴らしい活動です。スポーツクライミングは人間の本来の登る能力を発揮するスポーツであり、挑戦と達成感を提供します。そして、スキーモは2026年の冬季オリンピック種目に決定し、これからのスポーツとして注目されています。これらの活動を通じて、次世代のアスリートの育成を重要視し、自然環境の保護にも力を入れ、持続可能な活動を推進しております。

私の抱負は、大きく四つに分けることができます。

まず第一に、「財政面の安定化」です。これまでの活動を見直し、協会の財政基盤を強化することで、持続可能な運営を目指します。特に、スポンサーの皆様を大切にし、共に成長していける関係を築くことが重要です。スポンサー様のご支援は、我々の活動の礎であり、その信頼に応えるために透明性の高い運営を徹底してまいります。また、新たな財源も模索しています。日山協山岳共済会の会員を増やす方策や会員登録システム（JMSCAフレンド）を構築し、会員の皆様に有益な情報やサービスを提供できるよう努めます。

第二に、「減遭難活動の強化」です。特に一般登山者の遭難を減らすために、登山の知識と技術を習得する「夏山リーダー講習会」の開催を増やし、全国で参加いただけるようにします。また、「夏山リーダー資格」および国際山岳連盟（UIAA）公認の「上級夏山リーダー講習会および上級資格」も全国で開催できるように進めます。遭難救助は登山活動の安全を守るために欠かせないものであり、その充実を図ることが急務です。全国に加盟団体を持つ当協会ならではの強みを活かし、遭難時に地元の加盟団体が迅速に相談に乗れる新たなシステムの構築を目指します。迅速かつ効果的な救助活動ができるように、また、遭難防止のための啓発活動にも力を入れ、山岳安全教育を推進します。

第三に、「競技力の強化とメダル獲得」です。国内外の大会において日本の選手が活躍し、オリンピックや

世界選手権でメダルを獲得できるよう、トレーニング環境の整備と指導体制の充実を図ります。特に、若手選手の育成に力を入れ、彼らが国際舞台で輝けるよう支援を惜しみません。2024年度のパリオリンピックに向けて、日本は最もメダルに近い国と期待されていますので、JMSCAの総力を挙げて支援を強化してまいります。

第四に、「新生理事会として新しいスタートを切り、安定化すること」です。新体制の理事会の皆様と共に、協会のビジョンとミッションを再確認し、一致団結して目標達成に向けて邁進いたします。各理事の専門性を活かし、多角的な視点で協会の運営に取り組んでまいります。

私は、この四つの柱を中心に据え、全力で会長職を務める所存です。そして、協会員の皆様と共に、公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会の未来を切り拓いていくために、力を合わせて進んでまいります。

最後になりますが、温かいご支援とご協力があってこそ、当協会の活動が成り立つことを改めて強調させていただきます。これからも変わらぬご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。そして、皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会
会長　**蛭田 伸一**
令和６年７月

第60回海外登山技術研究会 2024

日時：令和６年６月16日（日）９：30 ～ 16：00（受付開始９：00）
会場：武蔵野公会堂２Ｆ 第１・第２会議室

司会は古谷委員。最初にJMSCA 小野寺専務理事の挨拶を頂き始まりました。

■成瀬　陽一講師「ネパールの沢へ2024（西ネパール・カルナリ川水系ラウリ川）」メンバー４名

動画を交えての報告、この沢はJMSCA岩崎委員長から紹介され実行。本流から支流へとルートをとるが高巻ルートは弱点が無い、途中のチョックストーン滝はカム・ハーケンも役に立たず。ボルトを打つのは「人工物を残す」事に抵抗があったので、この場所で本流に引返す。

一週間の沢登りは大自然の中でタープを張り、焚火をして夜を過ごした。そしてゴールの氷河湖に着いた時には「ネパールでの沢登りの可能性が広がった」と認識をしたとの講演でした。

■賀門　尚士講師「ツクチェピーク前衛峰北東壁2023冬（ネパール・ダウラギリ山群）」メンバー２名

メンバーの関係（農業従事者）で冬季を選択、この条件の元「写真・地形図」を使いしらみつぶしに探した結果、この山域に決定。ザックはリード用はとにかく軽量・フォロー用は頑丈を目的に手作り、スノーハンモックも手作りし、この研究会にも実物を持参。ここで賀門氏のお話は終了、登攀内容は引き続き、秋に行われる「ＡＣ懇談会」でパートナーの伊藤 仰二氏が報告を行うそうです。此処で午前中の講演は終了。

■山本　大貴講師「フォレソビ峰北壁2023　クライミングとレスキュー」メンバー２名

講師は登攀活動中も食欲はあったが体調が悪く鼻をかむと血が出て痰にも血が混じっていた、肺水腫の症状が顕著になりヘリを要請し途中からヘリで降りる結果に。ヘリ費用は高額でしたが、山岳保険で何とか支払う事が出来た話も付け加えられました。

■山本　正嘉講師「高所に潜む危険」

急性高山病は重症高山病へと進んで行く。早期発見の為には「急性高山病（ＡＭＳ）の診断スコアの記録をする事とパルスオキシメーターの持参と記録が有効。そして肺でゴロゴロ音がしたりピンク色の痰がでた時は重症高山病の肺水腫を疑う必要がある。高所順応は個人差が大きく、そして同じ人が同じ高度に登ってもその時々で違う。

■山本　大貴講師と山本　正嘉講師「高山病への対処法を知ろう」

座談会形式で行い木元委員が進行を行い山本大貴講師の体験を元に山本正嘉講師の助言を伺った。

「登山活動中は余裕が無い」との発言に「登山活動中はパルスオキシメーターで必ず記録をする事・パートナーと顔色などのモニターリングが必要」、「登攀活動中に血痰と鼻血が出ていたが、食欲があったので体調は戻ると思っていた」の発言に「その時点で重症高山病の肺水腫と判断して下っていれば、ヘリを呼ばないでも済んだ可能性がある」、「高度障害の対応薬としてロキソニンを持参（アメリカのクライマーは使っている）」の話には「高山病の対処薬はダイヤモックスの持参をお勧めします」などの話がありまました。

■須田　誠講師「東北のクライミング」

東北大学大学院の現役大学生、大学山岳部で登山を始め、学生の為資金に限りがあるので、現在近場の東北でアルパインクライミングを行っていて、季節ごとに山菜取り・渓流釣り・キノコ狩りなども下山した山域で行っている。活動の場所は、宮城県・山形県境の黒伏山南壁・宮城県の二口渓谷・山形県の山寺をホームゲレンデとしている。

ブッシュと泥の岩壁であるが、カッコの良いラインを探して登っている。パートナーは山形県と宮城県にそれぞれ居て、冬も氷壁登攀が出来て、ある山域はスコットランドに似ている。そして歴史上のクライマー小川登喜男も黒伏山南壁を登っています。

最後にJMSCA国際・ＡＣ委員会の岩崎委員長から閉会の挨拶で終了をしました。16時

今回も小林委員に自宅からオンライン配信の機材を持参して頂き、会場参加者34名・YouTube参加者65名・役員13名の合計112名となりました。

※海外登山研究会も60回目を迎え、過去を振返ると８mmフィルムの記録映像を映写機を使い講演会を行った時もあったそうです。その後はユニバサル（スライド）フィルムで撮影をして講演会で使用、そしてデジカメ撮影となり岩壁内での動画撮影も含め登攀の臨場感が講演会の参加者にも伝わって来たと思います。近年は遠方在住者に対してもYouTubeで講演会を配信をしていてたくさんの視聴者が受信、今後もっと情報提供が進歩をして行くと思います。

JMSCA国際・ＡＣ委員　烏　辰克

SAGA 2024 国スポ 全障スポ
新しい大会へ。すべての人に、スポーツのチカラを。

スポーツクライミング競技 リハーサル大会

2024年２月にボルダージャパンカップ、リードジャパンカップ、スピードジャパンカップの３大会を佐賀県多久市にある九州クライミングベースＳＡＧＡで開催し、いよいよ2024年度を迎え、本大会に向け、まずは６月にリハーサル大会を開催しました。

前回にも触れましたが、国民体育大会から国民スポーツ大会に変わる最初の年、10月の本大会では、ジェンダー平等の理由もあり、昨年まで全47県で出場していた成年男子も各ブロックで予選を行い、すべての種別で25チームが参加し、開催県（今回は佐賀県）の３チームを加えた103チームが出場し、ボルダリングの内容はこれまでと変わらないものの、名をボルダーと改め、リードにおいては、すべての種別で一人２本の予選を行うため、幅12ｍを余すことなく４人が同時に競技を行うべく、その準備を進めてきました。ただし、リハーサル大会は、２日間の日程で行うため、全種別15チームを募集し、成年男子11チーム、成年女子５チーム、少年男子15チーム、少年女子13チームのエントリーがありました。

８日（土）に全種別の予選が行われました。９時に成年男子のボルダー予選、少年男子・少年女子のリード予選が始まり、11時10分に成年女子のボルダー予選が始まりました。午後からはそれぞれを入れ替え、13時40分に少年男子のボルダー予選、14時30分に成年男子・成年女子のリード予選、16時10分に少年女子のボルダー予選が始まりました。各種別、翌日の決勝に進出したチームを紹介します。

ボルダー アップウォール

リード アップウォール

■ボルダー予選

	成年男子	成年女子	少年男子	少年女子
1位	鹿児島県	佐賀県	佐賀県Ａ	滋賀県
2位	佐賀県Ａ	福岡県	滋賀県	千葉県
3位	広島県	山口県	兵庫県	山口県
4位	長崎県	長崎県	宮崎県	福岡県
5位	山口県	宮崎県	熊本県Ａ	佐賀県Ａ
6位	大分県	－	福岡県	長崎県
7位	福岡県	－	福岡県	熊本県
8位	宮崎県	－	佐賀県Ｂ	愛媛県
	佐賀県Ｂ	－	－	－

■リード予選

	成年男子	成年女子	少年男子	少年女子
1位	佐賀県Ａ	山口県	佐賀県Ａ	千葉県
2位	鹿児島県	佐賀県	兵庫県	佐賀県Ａ
3位	山口県	福岡県	千葉県	福岡県
4位	鳥取県	長崎県	佐賀県Ｂ	山口県
5位	長崎県	宮崎県	滋賀県	愛媛県
6位	広島県	－	山口県	滋賀県
7位	佐賀県Ｂ	－	福岡県	長崎県
8位	大分県	－	佐賀県Ｃ	佐賀県Ｂ

▲４人同時に登る

◀仲間のためにブラッシング

▲完登間近

９日（日）に全種別の決勝が行われました。リードでは２種別の男女が同時に登り、ボルダーでは時間短縮のため国体では見られない方式で行われ、９時に成年男子のボルダー決勝、少年男子・少年女子のリード決勝が始まり、９時54分に成年女子のボルダー決勝が始まりました。午後からはそれぞれを入れ替え、13時15分に少年男子のボルダー決勝、13時30分に成年男子・成年女子のリード決勝、14時９分に少年女子のボルダー決勝が始まりました。決勝後の成績を紹介します。

■ボルダー決勝

	成年男子	成年女子	少年男子	少年女子
1位	佐賀県Ａ	佐賀県	佐賀県Ａ	千葉県
2位	鹿児島県	福岡県	兵庫県	佐賀県Ａ
3位	広島県	山口県	熊本県	福岡県
4位	大分県	長崎県	滋賀県	滋賀県
5位	山口県	宮崎県	佐賀県Ｂ	山口県
6位	佐賀県Ｂ	－	宮崎県	長崎県
7位	長崎県	－	福岡県	愛媛県
8位	宮崎県	－	熊本県Ｂ	熊本県
9位	福岡県	－	－	－

◀まだ行ける

完登間近

先はまだまだ遠い

▲完登

▲見守る兄

今回、本大会につながるリハーサル大会を、多久市実行委員会、佐賀県山岳ＳＣ連盟だけでなく、九州各県から役員をお願いし、どうにか終了することにできました。大会参加については、九州各県はもとより、関東の千葉県、近畿の滋賀県、兵庫県、中国の鳥取県、広島県、山口県、四国の愛媛県、遠くよりの参加、誠にありがとうございました。佐賀県選手については、全ての種別で上位に入り、本大会では強敵も連なる中、善戦を期待できる成績だけに、今後の練習をすべて本

■リード決勝

	成年男子	成年女子	少年男子	少年女子
1位	佐賀県A	山口県	兵庫県	千葉県
2位	鹿児島県	佐賀県	佐賀県A	佐賀県A
3位	鳥取県	福岡県	福岡県	滋賀県
4位	広島県	長崎県	佐賀県B	愛媛県
5位	山口県	宮崎県	千葉県	山口県
6位	佐賀県B	－	滋賀県	福岡県
7位	長崎県	－	佐賀県C	長崎県
8位	大分県	－	山口県	佐賀県B

大会で実力を発揮できるよう、しっかり準備していきたい。役員に関しては、これまで国体、ジャパンカップ、ユース大会等にコーチとして、保護者として参加しているのはごくわずかであるため、今回来られた多くの役員が大会を運営するのにまだまだ未熟と言わざるを得ません。先日、国スポ委員会や多久市実行委員会・連盟との定例会議では、数多くの反省点をあげられました。本大会を迎えるに当たって、時間はそれほど残っていませんが、それらを一つ一つ解決し、本大会に臨む必要性を感じました。10月には国民スポーツ大会スポーツクライミング競技に参加される選手・監督・役員・補助員のすべてが満足のいく大会になるよう準備を進めていきます。

ボルダー表彰式

リード表彰式

第33回オリンピック競技大会（2024/パリ）TEAM JAPAN

https://www.joc.or.jp/paris2024/

開催期間：2024年7月26日～8月11日

スポーツクライミング

競技日程：2024年8月8月5日～8月10日

出場種目：ボルダー&リード（男子2名・女子2名）

ならさき ともあ
楢崎 智亜
無所属
生年月日：1996年6月22日
IFSCクライミング世界選手権
ベルン2023で出場権を獲得

第32回オリンピック競技大会（2020／東京）4位。※スピード・ボルダー・リードの複合。リード・ボルダーともに競技力の高い選手で、国際大会で優勝・表彰台に乗る実力を持つ。長きにわたり日本の競技力を牽引している。

あんらく そらと
安楽 宙斗
JSOL
生年月日：2006年11月14日
IFSCアジア大陸予選
ジャカルタ2023で出場権を獲得

第19回アジア競技大会（2022／杭州）優勝。昨年初出場のワールドカップにおいて、ボルダーとリードの2種目で年間ランキング1位を獲得。史上初の快挙を果たす。

もり あい
森 秋彩
茨城県山岳連盟
生年月日：2003年9月17日
IFSCクライミング世界選手権
ベルン2023で出場権を獲得

第19回アジア競技大会（2022／杭州）優勝。リードの競技力が非常に高く、リードジャパンカップでは5連覇中。ボルダー&リードにおいても、国際大会・国内大会の優勝の実績がある。

のなか みほう
野中 生萌
無所属
生年月日：1997年5月21日
オリンピック
予選シリーズで出場権を獲得

第32回オリンピック競技大会（2020／東京）銀メダル。※スピード・ボルダー・リードの複合。ボルダーでのダイナミックな登りが魅力。ボルダーの競技力はもちろん、近年はリードの競技力も上がり、リードワールドカップでも決勝に残っている。

※PHOTO:JMSCA/アフロ

Enjoy Climbing

上野 はるか

パチンコ2024の記録　連載①

2024年5月のアラスカ遠征に向けて、穂高から槍への継続登攀（通称パチンコ）を計画した。結果は天気に恵まれ14日の日程をフルに使って屏風から登り、穂高の稜線を歩き、北鎌尾根を下ることができた。数年前から2人の計画に上がっていた山行だったので、無事に途中エスケープすることなくひたすらに槍を目指し、予定通りに北鎌尾根を下れたことは良かったが、パチンコの重要な要素である滝谷と槍の西稜をパスしたことが非常に心残りである。相方の保坂は山行を終えて、あと10年はやらなくていいかな～と言っているが、私としてはここ数年のうちに女性パーティでリベンジしたいと思っている。ここでは14日間の記録を4回に分けて書いていきたい。

①12月24日～27日　釜トンネル～横尾～屏風3ルンゼ～前穂北尾根4,5のコル

初日は釜トンネル入り口までバスで行き、横尾まで。26キロのザックはずっしり重い。これでも、事前に穂高岳山荘に後半戦用の食料燃料を1人5キロ分デポしたのだ。もちろんより良いスタイルはノンデポなのだが、今回のパチンコは序盤に屏風のルンゼ登りを計画していること、私がそれを30キロ背負って登るのは現実的ではないこと、登攀具もケチれないことなどの理由で事前デポ計画に決めた。慶応尾根から前穂北尾根に上がるのであればノンデポでいけるかなと思ったが、相方は屏風も登りたいと希望していたので2人で12月初旬に涸沢岳西尾根から穂高岳山荘にデポりに行った。

今回は屏風の1ルンゼを登るか3ルンゼを登るか直前まで迷っていたが、24日夜から25日はずっと雪が降っていたので、谷の広い1ルンゼは大規模な雪崩の危険もあるし、3ルンゼを選択した。

3ルンゼを冬期に登った記録を見つけることは難しい。相方の保坂は1ルンゼを登ったことがあったので、未知の3ルンゼを希望していた。25日の早朝、雪の降る中3ルンゼに向かって登っていく。幸い視界がきき、3ルンゼに食い込む氷が見える。よかった、思ったより立っていない。2ピッチのアイスクライミングは最大斜度で4級くらいの氷だったが、全装備背負っているので全然気は抜けない。スクリュー4本しか持ってきていないので心配だったが、許容範囲のランナウトをしつつ突破。垂直部分手前でザックをスクリューにラックして置いてきたのを、フォローの保坂が唸りながらビレイループにつけて登ってきた。私が下降して取りに行く手筈だったが頑張ってくれた。氷パートを抜けると、40度くらいの傾斜のスロープが続き、その先にカモシカ尾根らしき稜線が見えた。尾根まで出られたら良かったが、ラッセルにもそれなりに時間がかかり尾根には乗れず、スロープ左斜面のダケカンバの木々の中に幕営。この日はまる1日雪が

降っていて、3ルンゼの谷の中では時折スノーシャワーが流れ下り、恐ろしい1日だった。

3日目は前穂の北尾根まで上がれるだろうと思っていたが、カモシカ尾根というのがなかなかラッセルを要するし、垂直の藪漕ぎみたいな箇所もあり、ロープを出すし時間がかかる。やっとの思いで「屏風の耳」に出て前方を見た時、北尾根八峰の高さに驚いた。しかも「屏風の耳」から「頭」までもちょっと悪そうに見える。これまで慶応尾根から北尾根にアプローチしたことしかなかったが、屏風を登るとこんな時間かかるんだなぁと実感。3日目は「屏風の頭」を下った広めの斜面で雪洞泊。

4日目の朝は雪洞の天井が沈降して目の前に迫ってきていて最悪の朝だったが、夜が明けてくると風もなく穏やかな快晴でだんだん気分が上がる。しかも八峰からは先行者のトレースがあり万歳して喜んでしまった。慶応尾根から前穂の北尾根に来ているパーティがいるようだ。ここで1時間休憩して、バリバリに凍ったテントやシュラフを広げて干した。トレースがあると速いこと速いこと。14時頃には先行パーティが4峰を登っているのが見えた。4峰を越えて3,4のコルで2パーティ幕営するのも狭そうなので、今日は4,5のコルで良いか～ということになる。整地やブロック積みなど、これまでよりもテント設営に時間の余裕があり嬉しい。

翌日はいよいよ前穂北壁Aフェース。相方に、荷物からも解放されるし、登り始めたらたぶん楽しいんだけどさ、冬壁パートは緊張するなぁ、と話したら、「俺も」、と言っていた。

私たちの下山日の頃、1月の正月明けにパチンコにトライした友人がいたが、前穂での登攀を終えて3,4のコルに戻ってきたら、置いておいたでかいザックがまるまる消えていて敗退したと悔しがっていた。さすが穂高の風。クライミング道具を除いても20キロ近くあるはずのザックだが、風で飛ばされて落ちていったようだ。私たちは一応ハーケンを打ってザックを2つ繋げておいたが、このザック消失に限らず、どんな小さな油断や失敗でも突然の窮地を招く世界だ。敗退するのは無念でも仕方ないが、彼は敗退する中で山中2泊し、シュラフがなかったのだから、相当つらかったと思う。でもこういう死なない程度の失敗は、2度と同じ失敗をしないことに繋がる。

静岡県山岳連盟自然保護委員会のSDGsな活動

静岡県は東西に長く、富士山を始め南アルプスなど3,000ｍ級の山々があり、またハイキングに適した低山など多くの山もあります。他連盟と同じく、高齢化と会員数の減少が進んでおり、自然保護活動は各団体に任せているのが現状であります。

具体例を示せば、富士山地域においては富士山自然環境保全連絡会と連帯しながら、年２回オフロード車等の乗り入れ防止のパトロールを実施しております。この活動は、オフロード車等の乗り入れによる樹木（コメツガ、シラビソ等）の損傷、植生（オンタテ、フジアザミ等）の踏み荒らし等から富士山の貴重な自然環境を守るのが目的です。

箱根外輪山の一つ、金時山登山道周辺のごみ拾いを登山仲間と行っています。また、安倍川や大井川流域の山々では、地元の山岳会等がゴミ拾いを行っています。

富士山須走五合目のおいては、地元の登山ガイドたちと、春山シーズンには遊歩道の整備ならびに遊歩道沿いのロープの点検などを行い、ハイカーの道迷い・高山植物保護等行っています。夏山シーズンには各登山道の巡視業務を行い、登山者に対する自然保護の啓発活動を行うとともに、ごみの持ち帰りなども実践しています。

一般社団法人　静岡県・スポーツクライミング連盟
自然保護委員長　堀内　修

小富士への遊歩道整備①

小富士への遊歩道整備②

金時山登山道乙女峠でのゴミ回収

富士山御殿場口五合目から双子山にかけてのわだち

自然保護憲章50周年記念シンポジウムが開催されます

自然保護憲章は、国民の自然保護に関する指針として、1974年６月５日に制定されました。1960年代の高度成長期に各種開発が進み自然破壊が全国各地で問題化していたことを背景に、自然保護団体はじめ民間各界が集まり議論を重ね、自然保護の理念と行動をまとめ、国民会議のもと制定されたものです。本シンポジウムでは、自然保護憲章の制定50周年を迎え、その意義とその後の展開を踏まえ、今後のネイチャーポジティブ実現に向けた社会変革を展望します。

日 時：令和６年９月11日（水）13時～16時
場 所：星陵会館ホール（東京都千代田区永田町2-16-2）

オンライン配信もあります。詳しくは https://www.jma-sangaku.or.jp/information/28701/ を参照下さい。

令和5年度　UIAA公認上級夏山リーダー検定会、講習会開催報告

登山部指導委員会

2022年12月にＵＩＡＡから公認を正式に承認され、初めての上級夏山リーダー検定会が関西地区で３月20日、23日24日で４名の受講背で実施されました。

関東地区でも３月20日23日24日で14名の受講生で講習会が実施されました。

以下に主催者、受講者からの報告、感想を報告致します。

大阪府山岳連盟　**小畑　和人**

初めて一般募集でＵＩＡＡ上級夏山リーダー検定会を裏六甲で実施しました。

検定では、初めて山に連れて行ってもらった人が、怖気づいて腰が引けたり。動けなくなったりしたときに、サポート（引率型）する能力を見ます。

怖がる人をＳＰ（医学では模擬患者と言う）役の人に演じてもらいます。登山のリーダー養成にＳＰが必要であるとの理解はまだまだ進んでいませんが、上級夏山リーダーでは、ＳＰの方がグループの中に入ります。ＳＰの方に演じてもらう動きは、事前に検定する人とＳＰの方で打ち合わせをしておきます。

さらに検定はオープンタスク（決まった知識を学ぶのでなく自ら解答を捜す）で行います。具体には、講習会の場所と検定会の場所を変えます。初めての場所で、ＳＰに対する対応能力を見ることが目的です。以上のように、上級夏山リーダー養成には、参考にして頂くことがいっぱいあります。みなさん一緒に勉強しましょう。

川口市登山同好会　**八木　滋**

コーチ１を取得してからコロナ禍で久しく山に関する講習会などから遠ざかっていたが、JAMSCA公認夏山リーダーを取得した同好会からの仲間から講習内容を聞き、興味が湧いていた。そのような時、野村委員長から講習会のお知らせのメールを頂いて、即参加を決めました。

上級リーダー講習会は関東地域では第１回目であり、14名で参加できたことは幸いでした。講習会においては、山行経験がばらばらの参加者の引率型山行を安全に楽しく実施する為の事前準備（下見、地図読み）、山行中の参加者への声掛けなどの気配り、的確なナビゲーション、セルフレスキューなどの重要性を再認識させていただきました。

特に、夏山リーダーで使うロープワークが誰でもすぐに出来るオーバーハンドノットのみということが大きな驚きでした。

検定までには、山行の中で、講習会で学んだことを身に着け、安全で楽しい引率型山行が実現できるよう技術はもとより自然などの山に関連する知識も深めていこうと思います。

講習会においては、多くの先生や東京都山岳連盟の方々に大変お世話になりました。御礼申し上げます。

令和6年度全国指導委員長会議及びスポーツクライミング代表者連絡会議（SC合同）

開催日：６月１日（土）２日（日）
場　所：埼玉県伊奈町　県民活動総合センター
参加者：6/1　65名（対面28名＋Web37名）
　　6/2　53名（対面28名＋Web25名）

令和６年度全国指導委員長会議・スポーツクライミング代表者会議が埼玉県の県民活動総合センターで実施されました。山岳、スポーツクライミング共に指導委員会は首都圏の常任委員のみ会場にて集合形式で参加。各地からはＷＥＢ参加と会場参加のハイブリッド開催にて実施されました。

また昨年同様、山岳とスポーツクライミングの運営は兼任している都道府県も多いこともあり、山岳の指導委員長会議の後にスポーツクライミング代表者会議も併せて実施となりました。

山岳、スポーツクライミングそれぞれの昨年度の事業報告、委員会のメンバー紹介と役割分担、本年度の事業計画の説明とそれぞれの主任検定員の状況が説明されましたが、

＊スポーツクライミング指導委員会では2025年滋賀国スポから監督がスポーツクライミングのコーチ資格しか対象とならない為、引き続きＳＣコーチ１養成講習会を中央開催で実施されました。

＊現在JMSCA傘下以外でコーチ資格が取りづらい点も問題視しておりますが、都道府県の養成講習会の対応も議論されました。

＊夏山リーダー制度も上級編がＵＩＡＡの視察を受け、ＵＩＡＡ公認上級夏山リーダーとなって初めて、３月に関西地区で上級夏山リーダー検定会、関東でも上級夏山リーダー講習会が開催されました。

＊令和7（2025）年1月JMSCA指導者表彰（令和8（2026）年1月JSPO1号表彰、対象者の報告もありました。

京都府　森　裕紀子（25年）
北海道　明田　通世（23年）
山形県　菅野　享一（29年）

対象者はコーチ資格取得から15年以上で都道府県岳連、JMSCAでの貢献が対象となります。

＊

日本スポーツ協会の共通資格制度上の事項もあり、今後も山岳、スポーツクライミング共にそれぞれの指導委員会の活動を共有し、推進していくことになります。

＊2025年度 指導委員長会議開催予定

2025年5月31日6月1日

山岳指導委員長　野村
スポーツクライミング指導委員長　藤江

JMSCA 令和６年度 第２回 ハイブリッド理事会報告

○**日　時**：令和6年4月12日（金）
19：00―20：40
○**場　所**：Web会議
○**出席者**：蛭田・飛松・吉田各副会長、古賀・町田・望月・濱田・栗田・赤尾常務理事、佐藤・前田・中橋（採決に参加せず）・西谷・畑中・樋口（途中から参加）・中島・小田部・小髙各理事、以上18名。
古屋監事、以上1名。
○欠席：丸会長、小野寺専務理事、安井常務理事、島田・杉本・平田・山口・野村理事、以上8名。佐久間監事、以上1名。
○オブザーバー：萩原弁護士

1．開　会

2．会議成立状況報告
理事数：26名中18名出席です。
監事数２名中１名出席（定款第33条、定足数14名（１／２超））

3．議長選出
蛭田副会長が議長を務める。（定款第32条）

4　議事録署名人
副会長及び監事（定款第34条）

5．議　題（注．審議順に記載）
蛭田副会長が、利害関係者６名との交渉状況の説明を行った。
さらに、臨時総会で、提示する報告書の内容について協議した。
一部の内容についてマスキングして4/13（土）に臨時総会の追加資料として送付することについて採決を取り、以下のように承認された。
反対０名、棄権１名（古賀常務理事）、賛成16名
その後、今後の交渉方針について協議し、異議なく承認された。

以　上
令和6年4月12日　　記録　赤尾　浩一

JMSCA 令和６年度臨時総会 報告

○**日　時**：令和6年4月14日（日）
10：00 ～ 16：50
○**場　所**：JSOSビル３階第一会議室とWebのハイブリッド会議

1．開　会
会議成立状況（定款第18条）正会員数71名。定足数過半数、36名以上。
開会時、正会員＝51名出席（対面本人出席16名、オンライン32名、委任状３名）
上記にて会議は成立した。

2．出席者　※印は対面、他はオンライン
丸誠一郎会長※、蛭田伸一※、飛松好子※、吉田春彦※の各副会長、小野寺斉専務理事※、古賀英年※、町田幸男※、赤尾浩一※、望月啓治※、栗田季慎子の各常務理事、以上10名。小髙令子※、島田邦昭※、野村善弥、畑中渉、前田善彦※、小田部拓、佐藤建、中島隆之、中橋沙羅、西谷善子、樋口義朗の各理事　以上11名。古屋寿隆※、佐久間務※の各監事、以上２名。
石井昭彦（北海道）、服部一雄（青森）、吉田春彦（岩手）（役員）※、村上美智子（宮城）、齊藤喜代志（秋田）、大滝潤二（山形）、平子吉政（福島）、粂川章（栃木）、吉田直人（群馬）、加藤富之（埼玉）※、蛭田伸一（千葉）（役員）※、廣川健太郎（東京）※、水島彰治（神奈川）※、稲田春男（新潟）、小宮山稔（山梨）※、杉田浩康（長野）、中西紀夫（富山）、山本利幸（福井）、木ノ内高嘉（静岡）、伊藤智彦（愛知）、加藤正之（三重）、小木曽昭文（岐阜）、澤山恵（滋賀）、湯浅誠二（京都）※、小畑和人（大阪）、古賀英年（兵庫）（役員）※、藤本直民（奈良）、小坂秀己（鳥取）、山田雅昭（広島）、古林喜明（山口）、木村康男（香川）、峯本典寛（愛媛）、刈谷範光（高知）、寺崎良夫（福岡）、古川好幸（長崎）、原勇人（大分）、永谷常和（鹿児島）、細川浩（沖縄）、松尾浩志（高体連）、以上36名。
委任　西内博（茨城）、山口進（和歌山）、西本安幸（熊本）正会員、以上３名。

3．同席者
顧問　田中文男※、本木總子※、神崎忠男※、城隆嗣※
顧問弁護士　萩原崇宏※
委員長　百瀬恭平※、水村信二※、服巻辰則、西原斗司男、松本光顕、青山千影、奥井健吾（藤江代理）の各委員長
オブザーバー　内藤順造（山梨県山岳連盟）、米田正明理事長（石川、新会長代理）

4．欠席者
欠席理事　濱田豪、安井博志常務理事、杉本怜、平田伸也、山口純子理事
欠席正会員　新耕一（石川）、松本実（島根）、石原敬士（岡山）、原秀樹（徳島）、宮原敏明（佐賀）、松崎保忠（宮崎）
欠席委員長　谷口浩平、岩崎洋、山本和幸、宮澤克明、稲村彰映、角田元、恒石直和

5．会長挨拶
令和６年度臨時総会にご出席いただき有難うございます。本日は、事前にお配りした通り、重大な規律違反の疑義ある対象者の顧問弁護士、監事による調査結果の報告と、中長期財政再建についての報告となります。

6．議長選出
定款第16条にさだめるところにより、丸会長が議長となり、定款第18条第１項に定める定足数の充足を前述１のように確認して、本会議の開会を宣言した。
その後、赤尾事務局長から、本日の議事内容から、議長として丸会長は適切でなく、蛭田筆頭副会長が良いのではないかという動議が出された。
蛭田副会長を議長とすることについて採

決をとり、賛成多数（40名）となり、この後の議長は蛭田氏が務めた。

次いで、定款第20条第１項に基づき、議事録署名人として、野村善弥理事、杉田浩康正会員（長野）について決議し、賛成38名で、過半数を超えているので承認された。

７．議　案

議長が、報告議案２件と、決議議案はない旨説明した。

議案第１号　重大な規律違反の疑義ある対象者の顧問弁護士・監事による調査結果の報告について

蛭田副会長が過去の経緯と、現在交渉中であること、最終的に定時総会で報告する予定と説明した。また、配布資料の中にマスキングした部分がある理由を説明した。その後、古屋監事、萩原弁護士が配布資料を基に説明した。

以下の意見及び質疑応答がされた。

意見　競技大会赤字の比較対象、方法について疑問があるので、後日、弁護士と協議の後、意見を述べたい。

質問　ＳＣ強化費用減額の経緯（ＪＯＣからの連絡後、どのような経緯を経て減額に至ったか）の説明をお願いしたい。

回答　2022年度末にＪＯＣから連絡がきた。集計を４科目ごとに行い、実施していないものは未実施として正直に報告した。事務局、委員会とで、メール上で情報の共有はあったが、正確に確認をしていなかった。定期総会時には、その事実が発覚しておらず、その後、会長が経緯について訂正した。

質問　集計時に枠をオーバーしたものがあったのではないか。その管理をしていなかったら、損害賠償の対象とならないか検討してほしい。

回答　わかりました。なお、状況調査の報告はJOCにしたが、JMSCAから減額して再申請したわけではない。

質問　SKIMO強化費用の件について、詳細計画がなく取れなかったとのことだったが、どの部分か。

回答　年度初めに予算計画し、JOCから助成金額がでたので、補正予算として認識し理事会としても承認したが、直前になっても具体的にどの大会でいくら等の詳細計画まで策定していなかった。

意見　法人会計で、予算の範囲内での旅費を執行とのことだが、予算を意識していなかったら善管注意義務違反になるのではないか。弁護士の意見を確認して、後日コメントしたい。

質問　JOC補助金の過不足調査は過去どうだったか。

回答　過不足調査は以前からあった。JOC補助金で、負担割合10/10より７/10の事業を多く使用した。以前は問題にはなっていない。

質問　地方から見ると、JMSCAは何をやっているのかという感じで、よくわからない。ＳＣ競技の各事業の何にどれだけ使ったのか、内訳が不明。支出の透明性が上がり、将来の見通しができるようになったら、お金も出すようにしたい。

回答　執行伺いのプロセスによる改善や、ＳＣ競技の完了後の報告等が行われており、可能なものは開示していきたい。

質問　予算執行運用基準や規程と照らし合わせて、どうできなかったのか。何がたりなかったかを明確にしてほしい。

回答　情報の開示については、どこまで開示できるのか、理事会で検討していきたい。誰が、何の役職で、担当と責任があり、ＳＣ競技に限定して、規律違反があるかを明確にする予定。現時点の前提、制約条件がある中で報告している。

質問　法律的には、提示された金額は適切かなと思っている。今回、マスキングした部分を、明示するとともに、協議するのが良いのではないか。前総会時、理事が信を問うということだったが、それをせずに、関係理事が辞任してしまったというのは、少し変ではないか。最終的に、マスキングした部分を明確にし、責任を説明してほしい。

回答　賠償金額については、理事会に現状況下で提示できたのは1080万円で報告、提案され承認されている。なお、ＳＣ競技関係者では、３人が３月31日に辞任届を提出済、　丸会長は辞任予定の発表がされている。辞任された理事に対しては、引き続き交渉は継続する。

質問　３月度収支決算を見てびっくりしたとのことだが、事前にわかっていたら、いろいろな対処ができたのではと懸念している。理事会に報告が遅れたこと、督促したのに出てこなかったことは善管注意義務があるのではないか。三段階チェックの仕組みがありながら理事会が容認してしまった問題があるのではないか。

回答　いわれる通りであり、ＳＣ競技後は１－２か月を目途に報告するように徹底した。ＳＣ部の新体制では、結果が出ており、今後はこういったことはないと考えている。次の会長を決めて、新体制を確定するのを５月末までには行う必要がある。また、財政再建についても体制を含めて、開始していく必要がある。

質問　理事会に報告が遅れたこと、督促したのに出てこなかったことは理事全員の善管注意義務があるのではないか。

回答　理事会でも口頭で、提出の依頼や問題点の指摘はされているが、文書としては細かく残しているかは不明。法的には、善管注意義務の対象とはなりうるが、現状の制約下では断定するまでには至らなかった。

質問　理事会、総会議事録を含めた情報の共有を早くしてほしい。

回答　理事会報告をより早く公開するかは検討中である。１週間以内に議事録案をまとめ、理事会総意としてまとめるには、さらに時間を要している。月報では報告とし、議事録の内容をさらに編集している。

意見　今回資料送付がぎりぎりだったが、事前にその旨伝達してほしかった。

質問　文章中マスキングされた（空欄）部分にはどのような内容が記入されているのか。

回答　善管注意義務として本来どうあるべきだった、こういう義務があった、こういう事実があったという内容がはいる。

－交渉過程でそれをそのまま表示するのは支障があるということで、マスキングしている。

－それぞれが全額を払う必要（全体責任）がある。

－当マスキングされた内容は、交渉後に、６月の定期総会までに報告できるようにしたい。

質問　基金については、どういう状況になっているか。

回答　３月29日までに2740万円まで収集された。この後の状況は、第2議案で説明予定。

議案第２号　JMSCA財政再建計画骨子案について

吉田副会長が、配布資料を基に説明し、その後、望月常務理事が補足説明をした。

その後、以下のように質疑応答があった。

意見　JMSCA収支の経過と概要について、正味財産と特定資産の数値を入れたほうがわかりやすい。2020年特定資産として6000万円を積んだが、その後、2023年で、どれだけ減ったのかの経緯がわかるとよい。

質問　オリンピックの位置づけをどうとらえているのか、競技ごとの目的を明確な定義がされているかをうかがいたい。

回答　８大会のランク付けについては、以下の通り

Ａランク　ジャパンカップ

Ｂランク　ユース関係（BYS, SYC, LYC）

Ｃランク　フューチャーカップ（小学生）

など、現行契約の下で運営している。今年は今の契約下で実施するしかない。行政との関係、約束などは、５か年契約等を作成したいと思う。

質問　契約で、８大会を一部減らして、６－８位＋招待選手で賞金、プロモーターを使用して、興行をするようなことをしてはどうか。

回答　まさしくそれを行うのが、マーケティング委員会だが、今後は、登山や、スキーモにも対象を増やしていきたい。

質問　財政再建準備委員会は、組織図のどこに入れるのか。会長直下なのか、理事会と並行なのかを明確にしてはどうか。JMSCA未来研究委員会（仮称将来を見据える会）等と理事会の関係を明確にしてほしい。

回答　前回は、財政再建は、規律、規程、組織運営体制も作ったが、機能しなかった。今回の骨子は、土台であり、本格的に動かしていくのは、７月１日からである。次の総会に向けて、詳細を詰めていく予定。

質問　規律、規程等を明確にしても、結局守られてこなかった。第１期の基金応募状況を出していただきたい。詳細がないと、次の募集につながらない。岳連の総会で報告も必要である。

回答　理事会で、どこまで公表するか決めておらず、慎重に対応する必要があるので、現状ではお見せできない。

質問　5000万円という目標に対してどこまで集まったか、２次募集を検討するうえでも提示してほしい。

質問　６人だけの問題だけでなく、強化、スキーモを含めた前理事の責任もあるのではないか。

回答　基金については、後ほど協議できればと思う。

意見　加盟団体推進ＰＴから出された問題もある。当ＰＴのメンバーを入れる。将来の組織を考えることと合わせて検討が必要である。

意見　４月度の共済会の実績（42000人）に対して、ＳＣ部の方の加入促進も考えてほしい（審判、ルートセッター等）。一般登山者の自律支援も着手してはどうか。また、登山研修をオンラインで実施、登山研修、各岳連が指導体験クライミングをおこなうなど。

質問　選手強化補助金の事業費のとらえ方について、選手負担金を収入に位置付けることにより、補助金の充当率を高めるこ

とを目指しとあるがどういうことか。
回答　具体的には、選手負担額は、事業費として認識しなかった。選手負担分は旅行会社が直接JMSCAに請求しておらず、事業費として計上していなかった。
意見　JMSCAは、スキーモ、アイスクライミングなどの競技等消化できるのか。登山者事故が多い中、競技に力を入れる余裕はないのではないか。真剣に考えてほしい。
意見　登山から競技へシフトしている。複数の競技も増えている。未来研究委員会のような場で検討してはどうか。
質問　事務局体制をしっかり強化する必要があるのではないか。
回答　人が入れ替わって立て直しに時間がかかる。財政を強化していきたい。管理費については、以下の２つが課題である。
－固定費を減らす
－プロセス、システムの見直し
質問　JSOS（現行の場所）にいるメリット、デメリットは何か。
回答　メリット：競技は、ＪＳＯＳの近くが良い。デメリット：賃料45万円（周りの相場より安いが）
質問　今期債務超過の状況はどうか
回答　３月末時点の状況を画面に表示した。
支出　５億5700万円
収益　５億1600万円
収支差　マイナス　－4100万円
期初正味財産＋上記収益＋基金＋その他で、正味財産は、1700万円強の予定。
質問　2023年補正予算時では収支がマイナス　3487万円だったが、最新の予想では、マイナス4100万円となっているがこの差は何か。
ＳＣ強化　－2000万円
ＳＣ競技　＋1000万円
その他＋400万円などの合計である。
質問　損害賠償保険の進捗状況はどうか。
回答　現時点であやふやのところがある。裁判の見通しが立っていないので、裁判の結果が出れば、それを基に損害賠償ができるが、結果がない状況では、判決結果が認められないとお金が出ない。
質問　令和６年度の支出を抑えたとのことだが、今期の事業見通しはどうか。
回答　共済会が出しているものは従来どおり。JMSCA負担の少年少女：５万円＊14団体＝70万円を補助予定。予算の範囲内で、期待に沿うように。国スポブロック大会：９ブロック30万円（前期と同様）
県予選：10万円（補助なし）
質問　基金について、返すとのことだがどういう状況で返せるのか、返済条件はどうか。
回答　骨子案での目標：一般正味財産がゼロ（４年後先目途）になり、5000万円くらいになったら（6.5年先目途）、返済したい。
質問　昨年、以下の点で改善提案をしたが、その後どうなったのか。
－役員の善管注意義務の見直し。
－予算管理関係、きまりはあるが運用のルールがないものがある。
－ガバナンス委員会が機能していないのではないか。
いつまでに行うのかを明示してほしい。
回答　選手登録等の教育のために、弁護士が時間を割くことができなかった。早急に対応していく必要があるので、お手伝いやアドバイスが必要と思う。できるだけ、早く対応していきたい。
意見　辞任した理事は補充するのではなく、減らしたままが良い。
質問　共済の還付金はどうなっているのか。
回答　加盟分担金に対する支払いは完了している。
質問　監事の補充はどうするのか。
回答　補充が必要で３名体制としたい。

８．その他

顧問からの意見
城顧問
質問　近畿岳連からの意見書等の返信が来ていない。質問表を出したら、回答を出してほしい。
回答　回答をしっかり行うようにしていきたい。理事会で取り上げてほしい場合には、常務理事会で諮り、その後理事会で協議する。
神﨑顧問　意見　登山界全体のリーダーとして、JMSCAがしっかりしてほしい。登山のイメージが、一切浮かんでこない（登山者のことを考えているのか見えてこない）。これからのJMSCAには、ついていけないかもしれない。
田中顧問　意見　登山者全体の利益のために何ができるかを考えてほしい。登山者に必要とされる組織の意識を持つことが必要ではないか。保険加入者の中にリーダーの過失があっても、補償対象となった。この結果、保険料が上がる見込み。共済会加入者数を５万人に増やしたらどうか。
本木顧問　意見　負債をどうするかという話ばかり。７月にＵＡＡＡ30周年記念を、行うが、そういう話もとりあげてほしかった。
共済会について
　共済会会員を増やす工夫について説明し、理解を得たい。４万人が＋１名を誘う。ＱＲコードでその場で入ってもらう仕組みを考えている。
地方からの要望
　地域によってさまざまな要望が出てきている。その要望を取りまとめていければ、まだ人数の増加はできる。
基金について
　善管注意義務の対象：各理事は出してほしいと思う。理事が出さないなら、誰も出さない。今回対象となった６人だけでなく、他の理事にも責任を感じてほしい。
理事をやめればよいということではない。
その他
　執行部を早く立て直し、体制を決めてほしい。皆で少しずつできることをやっていきたい。UAAA30周年はよい機会という理解をしてほしい。
　以上をもって、オンライン会議システムは、終始異常なく、議事全部を終了した。

以　上

令和６年４月14日　　記録　赤尾　浩一

JMSCA

令和６年度 第３回 ハイブリッド理事会報告

○**日　時**：令和６年５月９日（木）
14：00―17：00
○**場　所**：JSOSビル３Ｆ会議室10とWebのハイブリッド会議
○**出席者**：蛭田・吉田各副会長、小野寺専務理事、古賀・町田・望月・濱田（途中退席）・安井（途中退席）・栗田・赤尾常務理事、佐藤・前田・野村・小髙・中橋・山口（第５号議案まで）・島田・西谷・畑中・平田・中島・小田部（途中退席）各理事、以上22名。古屋、佐久間各監事、以上２名。
○欠席：丸会長、飛松副会長、杉本・樋口理事、以上４名。

１．開　会

２．蛭田副会長挨拶

　本日丸会長欠席で、丸会長が５月末日で会長の職を辞任することに伴い、登記簿の変更が必要。６月初めからの会長を、本日の理事会で決めたいのでご協力をお願いしたい。

３．会議成立状況報告

　理事数：開始時26名中20名出席。監事数：２名中２名出席（定款第33条、定足数＝14名（１／２超））

４．議長選出

　丸会長が欠席のため、蛭田副会長が議長を務める。（定款第32条）

５．議事録署名人

　副会長及び監事（定款第34条）

６．議　題（注．審議順に記載）

議案第１号　第２回理事会議事録（事前配布済）について

　異議なく承認された。

議案第２号：新役員について

会長の選任について

　会長立候補者を確認するが、立候補者なし。その後、蛭田筆頭副会長から限られた期間で、新たな理事を選出するのは難しいので、現行理事の中から選びたい。常務理事会では、筆頭副会長である自分が代表理事とならざるを得ないとなったが、皆様のお考えはいかがと問いかけた。その後、会長の推薦者の有無を確認したところ、町田常務理事、野村理事から、47都道府県とのつながりと、JMSCAとしての信頼を得るという観点から古賀常務理事が推薦された。
　その後、各理事の意見を一人ずつ確認し、以下の意見が出た。
＊会長は、関東近辺が良いのではないか。
＊蛭田副会長が筆頭副会長として、人事案を今まで取りまとめてきたので、会長として蛭田副会長にお願いしたい。
＊皆で意見を出し合い、正しい方向となるよう協力しあえればと思う。
＊今後のＪＭＳＣＡ再建のために、加盟団体からの理解と協力は必須で、ＰＴとして取りまとめた実績から古賀常務理事に会長をお願いしたい。
＊蛭田副会長が調整力、実行力を発揮して、組織の是正に向けて対応していくことに期待したい。
　上記の結果、以下の２名の候補者について、推薦理事数をまとめた。
　蛭田副会長推薦理事者数：17名
　古賀常務理事推薦理事者数：２名という結果から、蛭田副会長が令和７年定時総会までの任期で会長となることが承認された。
役員案について

蛭田副会長が、現行理事体制で対応することを前提に、画面上に、方針と役員案を表示し、次の内容を補足した。
＊古賀常務理事に筆頭副会長をお願いしたい。
－古賀常務理事から、副会長業務や、定款規程の見直し、ＰＴの業務、共済会員数の増加を行うとなると、登山部長の業務ができないので、野村副登山部長に登山部長をお願いしたい。
－野村理事は、やむをえないと考え、登山部長を受諾する方向と返答した。
＊望月常務理事：専務理事、事務局をサポートする。
＊マーケティング委員長として、小田部理事に常務理事をお願いする。
＊事務局は、システムサポート、理事会報告の早期伝達の方法を考える。
＊役員選考規程や、役員選考委員規程等の見直しを考えると山口理事に常務理事となってほしい。
＊委員会の委員長、現行理事は、現状の体制のままだが、ＳＣ部、登山部とも主管理事、担当理事を見直す予定。

議案第３号　令和５年度決算について

赤尾事務局長が配布資料をもとに、速報値を紹介した。収支について：最終損益はマイナス3,800万円の見込み。正味財産見込みは、1,900万円となり、債務超過は免れる見込み。

議案第４号　令和５年度報告（総括）について

小野寺専務理事が状況を説明し、次回６月６日の理事会で採決することを伝えた。当総括に、財政再建準備委員会を、３月14日理事会で立ち上げたことをいれることにした。

議案第５号　基金申込者の名簿について

臨時総会で基金申込者名簿の公開をもとめられた件について、理事会として意見をまとめたいということで、以下の意見が出た。
＊常務理事、理事は詳細を知っておく必要があるのではないか。
＊公には、金額は出さず、氏名、団体名等をだしたらどうか。
＊2022年度の理事にも責任があるのではないのか。岳連に依頼する前に、一口以上基金に協力するのが筋ではないかといわれている。
＊基金返済時には、総会で氏名、基金金額を公表せざる得ない。
＊公表しないならば、その理由を明確に伝える必要がある。

引き続き調査を継続し、公表するしないの提案を後日行うことになった。

蛭田副会長が、2022年度の理事（2022年度で退任、2023年度継続を含む）で基金拠出していない理事、監事には、別途メールで協力依頼することを提案し、異議なく承認された。

議案第６号　定時総会について

二次基金募集をするかどうか。オリンピックで資金不足は、さけたいという声もある。定時総会時には、キャッシュフローの状況を含め、判断し提案したい。

小野寺専務理事が、当日の議事内容（案）について説明した。その後、１月度理事会で“全役員が職を辞して、６月の総会で信を問う件について”決議した件の撤回について、以下の意見がだされた。
＊赤字決算の詳細は、わかりやすい説明が必要。
＊撤回するならば、現状の詳らかな説明と、財政再建に時間がないこと、辞任では責任がとれないことを伝える。
＊内容を撤回せず、総会で信任を問うと（提案）してはどうか。
＊ＳＣ競技については昨年４－６月の状況と、７月以降の状況を明確に分けて説明した方がわかりやすい。
＊１月度の議事録に残っているので、撤回しないと、決議した通りにせざるを得ない。現体制でいくことの理由と背景を、総会で説明し、ご理解をいただけるように説明してはどうか。

１月の議事録の内容の撤回について、異議なく承認された。
反対ゼロ、棄権ゼロ、賛成全員

議案第７号　ＳＣ指導委員会規程、規約変更について

小野寺専務理事が配布資料を基に、環境の変化に応じた文言の変更や、表現上の訂正をし、整合性をとった旨の説明をした。その後、当変更について採決し、異議なく承認された。
反対ゼロ、棄権ゼロ、賛成全員

７．報　告

報告第１号　キャッシュフローについて

赤尾事務局長が、配布資料を基に説明した。

１．みずほ銀行からの借入条件変更について
＊借入の管理が支店→本店へ変更になった。
＊借入限度額１億1,000万円→補助金、助成金額による
＊借り換え等随時延長が可能→一度全額返済、実行可能上限額を随時見直しすることになった。

２．キャッシュフローについて

篤志家への返済（５,000万円）、銀行への返済（８,000万円）は可能。その後、できるだけ概算払いの仕組みを実施、銀行借入（約6000万円）も実施していく。計算精度について支払い金額は、予算数値だけでなく、過去の支出実績も参考にして出した方が、より現実の数値に近いかもしれない。

報告第２号　アジア山岳連盟30周年記念事業進捗について

小野寺専務理事，蛭田副会長が配布資料（７/23－７/27で実施予定）を基に説明した。海外あてにCalling Noticeを出した。JMSCA関係で70人くらい集める必要があり（参加者は自腹で費用負担）、７/26式典に参加してほしいと呼びかけた。委員会にも案内と協力依頼を出した方がよいという意見が出た。

報告第３号　山岳共済会令和５年度決算、令和６年度予算について

次月に説明。スポーツクライミングからも委員として参加するようにしてほしい。

報告第４号　超党派「山の日」議員連盟第25回総会について

小野寺専務理事が配布資料を基に説明した。今後は、登山部の人に参加してもらった方がよいかもしれない。

小野寺専務理事が、以下の第５号から第９号について、各自読んでおくように伝達した。

報告第５号　後援依頼「日本山岳写真協会」展について

報告第６号　後援名義申請「登山医学会ＤｉＭＭ」について

報告第７号　ＳＣ競技委員常任委員について

報告第８号　ＳＫＩＭＯ強化指定選手について

報告第９号　2024年度スピード強化選手について

８．その他

町田ＳＣ部長が、マーケティングパートナーとの契約について状況の説明をした。

以　上

令和６年５月９日　　記録　赤尾　浩一

JMSCA

令和６年度 第４回 ハイブリッド理事会報告

○**日　時**：令和６年６月６日（木）
14：10―18：15
○**場　所**：JSOSビル３Ｆ会議室10とWebのハイブリッド会議
○**出席者**：蛭田会長、吉田副会長、小野寺専務理事、古賀・町田・望月・濱田（途中退席）・安井（途中退席）・栗田・赤尾常務理事、佐藤・前田・野村・小髙・中橋・山口（議案第３号から参加）・島田・西谷（15：40から退席）・畑中・平田・中島・小田部・樋口（15：05から退席）各理事、以上23名。古屋、佐久間（15:20から参加）各監事、以上２名。
○欠席：丸会長、飛松副会長、杉本理事、以上３名。

１．開　会

２．蛭田副会長挨拶

複数理事が厳しい財政状況の中で辞任したが、理事、各委員会の皆様がよくしようと頑張ってきたので、現体制で、残り一年継続し、岳連の皆様にも実績を示せるようにしていきたい。スポンサーを含む外部に対しても、いつも厳しいというだけでなく、JMSCAが頑張っている姿を見せ、オリンピックメダル獲得のチャンスもぜひ生かしていきたい。今後一年間ご協力をお願いします。

３．会議成立状況報告

理事数：開始時26名中22名出席
監事数：２名中２名出席（定款第33条、定足数＝14名（１/２超）

４．議長選出

蛭田会長が議長を務める。（定款第32条）

５．議事録署名人

会長及び監事（定款第34条）

６．議　題（注．審議順に記載）

議案第１号　第３回理事会議事録（事前配布済）について

異議なく承認された。

議案第２号　役員担当について

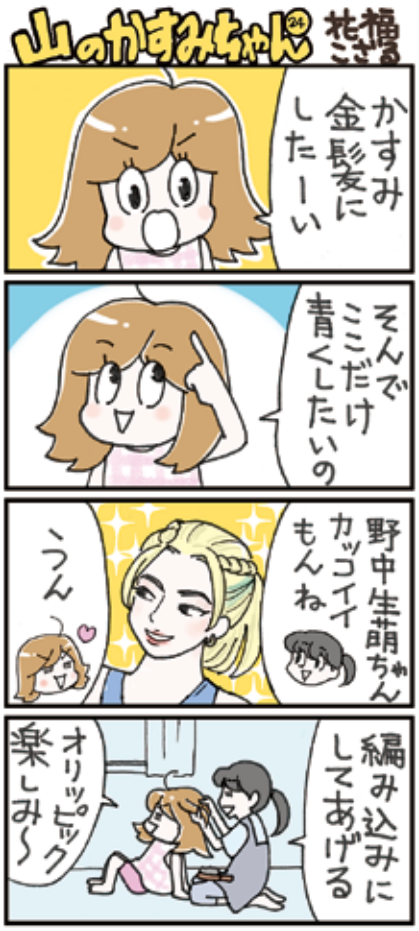
１．ＳＣの各委員会の役員変更について

町田部長が配布資料を基に説明した。
技術委員会：樋口主管理事、中橋委員長
普及委員会：栗田主管理事
マーケティング委員会（スキーモ、登山もカバーする）：町田主管理事、小田部委員長
ＳＣ指導委員会：野村主管理事（登山部

長も兼ねる）
上記について、異議なく承認された。
2．常務理事について
当初常務理事候補者が、12名いたが、理事26名（総会後23名になる見込み）に対して12名では、常務理事会の決議内容が、そのまま理事会でとおってしまい理事会が機能しなくなってしまうことが懸念される。各専門部（総務部、ＳＣ部、登山部）部長は、常務理事でなければならないという制度上の決まりもある。
上記意見から、常務理事の数を減らした方がよいのではということで、会長１名、副会長２名、専務理事１名（総務部長兼任）、事務局長１名、登山・ＳＣ部長２名の合計７名で以下の常務理事（業務執行理事）案で採決を取り、承認された。
会　長：蛭田　伸二
筆頭副会長：古賀　英年
副会長：吉田　春彦
専務理事：小野寺　斉（総務部長兼任）
登山部長：野村　善弥（今回正式受諾）
ＳＣ部長：町田　幸男
事務局長：赤尾　浩一
棄権ゼロ、反対ゼロ、賛成22名
議案第3号　令和5年度報告（総括）について
小野寺専務理事が配布資料をもとに説明し、以下の意見が出た。
ＨＰ上に掲載した内容（年次計画）にクレームがあったので、年次計画は、７月に一部変更提案予定。各理事、委員会で内容を確認していただき、変更が必要であれば、６月７日（金）までに、事務局に送付していただく前提で採決をとり、以下のように承認された。
棄権ゼロ、反対ゼロ、賛成22名
議案第４号　令和５年度決算について
赤尾事務局長が配布資料をもとに、決算案を説明した。
貸借対照表で、正味財産は、2,034万円となり債務超過は免れた。基金2,740万円が大きく貢献した。収支について、3,796万円の赤字となっている。その後、以下の意見が出た。
＊補正予算（４－６月の影響で－3,500万円弱の赤字を予想）と実績値（－3,796万円の赤字）でほぼ同様となった。収入、支出について、ＳＣ強化関係で、補正予算時と比べて増えている。
＊総会時には、ＳＣ競技委員会、ＳＣ強化委員会、事務局が大きい支出となっているのでこれらの委員会の状況を説明することになった。その後、総会、内閣府への提出決算書類について採決をとり、以下のように異議なく承認された。
棄権ゼロ、反対ゼロ、賛成22名
さらに、財政基盤確保資金の600万円をとりくずす件について（過去２年で国内外の競技用途で6,000万円から5,400万円を取り崩して残った資金）、５月31日監事監査後、６月４日に会計士から、取り崩すように指摘された。先ほど承認された2023年度の貸借対照表の一部変更（財政基盤確保資金600万円取り崩し）と、本日６月６日（木）に、変更後の決算書類を監事により追加監査を行うことを前提に、あらためて変更後の決算書類について、採決をとり、以下のように承認された。
棄権ゼロ、反対ゼロ、賛成22名
その後、６月６日の追加監査を経た決算に係る報告、監査所見について佐久間監事から報告され、以下のように承認された。
棄権ゼロ、反対ゼロ、賛成22名
議案第5号　基金拠出者名簿の公開について
前回の臨時総会で要求が出た標記の件について、総会では公開しないと、基金拠出者にお礼ができないので最低でも名簿を公開することが必要という意見が多く出た。また、理事会には、拠出金額を含め、理事が決定にかかわることが必要なので、氏名と金額を公開することが提案され、以下のように異議なく承認された。
棄権ゼロ、反対ゼロ、賛成22名
議案第６号　定期総会の議事について（８その他で協議）
議案第７号　正会員の入退会について
小野寺専務が、配布資料を基に、以下の４県の正会員入退会の提案がされ、異議なく承認された。
（新正会員）
鹿児島県山岳・スポーツ連盟：川添秀男氏、
宮崎県山岳・スポーツクライミング連盟：
新原祐治氏
宮城県山岳連盟：山田定道氏
千葉県山岳・スポーツクライミング協会：
目次俊雄氏
議案第８号　クライミング体験会（石鎚パーク）の主催について
町田登山部長が説明し、スポンサーが事業関係資金を供出し、JMSCAが主催となるイベントの説明をし、異議なく承認された。
議案第９号　組織運営規程について
古賀登山部長が、配布資料を基に、加盟団体振興推進ＰＴのJMSCAの組織での位置づけについて説明し、以下の質疑応答があった。
－五輪推進室を置き換える根拠は何か。
－委員会とは別で、常務理事会、理事会に提言するという目的である。
－当ＰＴは、スポンサーの件や、ＳＣ、スキーモも取り扱うのか。
－ＳＣ関係の委員会についても、変えると様々な問題がおきる。
－当件は、総務委員会で検討後、全体の整合性を取ったうえで、理事会へ提案した方がよいのではないか。
－定款と照らし合わせながら、組織を考える必要がある。
－加盟団体振興推進ＰＴ設置要綱（設置背景、会議頻度、運営形態等）があり運用できれば、組織図を変更しなくてもよいのではないか。
－ＰＴ（プロジェクトチーム）は、一時的な活動なので、継続するならば、名前を変更するということも含めて検討してはどうか。
－理事会の前に総務委員会で検討すべきではないか。
以上の意見交換後、一度総務委員会を開催し、関係者参加の上、意見を聞きながら、どう進めるか検討することになった。
議案第10号　Ｔ顧問の名誉会長への委嘱について
蛭田会長が、JMSCAとして名誉会長の就任をお願いする背景の説明をした。
また、ご本人からは、ＪＭＳＣＡが社会的に有用と認められるために、自分が有用ならば協力するとのことで、内諾済である。
異議なく承認されたので、蛭田会長がＴ顧問に委嘱することになった。
議案第11号　会員管理システム（JMSCAフレンド）について
システム開発業者から、ＪＭＳＣＡに、７月に行う対外的なイベントで、インタビューさせてほしいとの希望が出ている。一方、以下のような意見が出た。
－ＪＭＳＣＡ内に当該システムを紹介してほしい、参加料の徴収や、マーケティング活動につなげる、各委員会で持っている情報を共有化する。スキーモの大会結果をつなげるなど。
－総会でも紹介可能。
－当プログラムは、会長自ら行うのではなく担当委員会、メンバーを決めた方がよいのではないか。
－ランニングコストが月11万円かかっているが、今後発生する減価償却等も考慮し、自走できるための開発、拡張に資金を使用した方がよい。
蛭田会長がインタビューを受ける件について採決を取り、異議なく承認された。
７．報　告
報告第１号　財政再建準備委員会からの報告について、吉田副会長が、配布資料を基に以下の内容を説明した。財政再建委員会の根幹は業務執行理事が担う。
目標として、
１．事業規模の適正化
２．広告代理店による収益確保などを通じ、財源確保につなげる。
３．進捗管理が必要。
４．基金二次募集を行うが、理事会で協議する。
総会の前に次回会議（６月18日予定）を行なう。複数岳連から申込を考えているとの声がでており、二次募集は時期を逸しないように進めてほしいという意見が出た。
報告第２号　アジア山岳連盟30周年記念事業進捗について、小野寺専務理事が現状を説明した。地元の関係者（新潟県山岳協会、ＪＡＣ新潟支部、新潟県、長岡市等）と協議を進めている。理事の方にも参加してほしいと考えている。ホテルは手配ずみ。
小野寺専務理事が、以下の第３、４号について配布資料を読んでおくよう伝えた。
報告第３号　山岳共済会令和５年度決算、令和６年度予算について
報告第４号　指導員認定について　（常務理事会承認済）
報告第５号　業務執行理事の職務執行報告
各業務執行理事が報告を読んで、理事会で説明した。
報告第６号　各委員会議事録について
８．その他
１．自然保護委員会の委員の承認について
登山部には承認依頼がきているが、登山部全体でまとめて提出する予定のため、常務理事会での提案、承認は、まだされていない。
２．定時総会　第３号議案　善管注意義務違反者処置について
当日説明する内容を、事前に理事と共有する目的で、蛭田会長が善管注意義務違反者の状況について説明した。裁判となり、解決が長引くよりも、JMSCA理事会として早期決着し、前を向きたいので、ご理解いただきたいと総会で説明する予定。
O氏は正会員全員の合意が必要。
一次基金を拠出しなかった令和４年度理事10人中８人は、次回基金募集で申込の予定ときいている。

以　上
令和6年6月6日　　記録　赤尾　浩一

かすみちゃんのハイキング日記」



表紙のことば

富山湾から望む立山連峰は、標高3,000m級の山々が屏風のように連なり、特に雪を頂いた峰々の神々しさには圧倒されます。

海越しに3,000m級の山脈が見られるのは世界的に非常に珍しく、富山湾は「世界で最も美しい湾クラブ」に加盟しています。

冬に降り積もった雪が豊かな水の恵みをもたらし、峡谷や扇状地を作って山、川、海がつながり、水深1,000mの富山湾まで高低差4,000mのダイナミックなフィールドが広がっています。

富山県山岳連盟

編集後記

日本山岳・スポーツクライミング協会は蛭田会長になり、新体制でスタートしました。蛭田会長が進めているJMSCA（ジムスカ）フレンド。新規会員を募集中です。

https://friend.jma-sangaku.or.jp/

スポーツクライミングの五輪代表に野中生萌選手が内定しました。おめでとうございます。パリオリンピックではスピード種目、複合種目（ボルダー＆リード）の2種目で競い合います。開会式は7月26日！たのしみですね。　（松本光顕）

登山月報　第 664 号

定　価	110円（送料別）
予約年間	1,300円（送料共） （毎月1回15日発行）
発行日	令和6年7月15日
発行者	東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号 Japan Sport Olympic Square 807 公益社団法人 日本山岳・スポーツクライミング協会
電　話	03－5843－1631
F A X	03－5843－1635

山岳雑誌
岳人（がくじん）
山と人、時代をつなぐ「岳人」

8月号発売中

【特集】信仰の山 白山

モンベルのウェブサイト
全国のモンベルストアや書店にて発売中！

毎月15日発売　価格1,100円（税込）

▶年間購読が断然おトク！

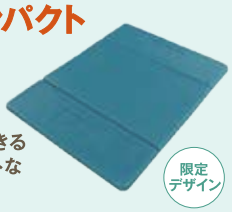
年間購読通常特典　購読割引　送料無料　限定品プレゼント

さらに　モンベルクラブ会員さまには　モンベルポイント 5,000P プレゼント！

モンベルクラブ会員さまで現在購読中の方は、次回継続時に5,000Pをプレゼントします。

年間購読特典

岳人コンパクトフォームパッド



手軽に携行できる軽量コンパクトなパッドです。

限定デザイン

岳人カード

全国2,000ヵ所以上でご優待！

全国の温泉や山小屋など提携施設でさまざまなご優待が受けられるカードです。

年間購読のお申し込みはこちらから！
https://www.gakujin.jp/

全国のモンベルストアでも受付中！

お問い合わせ　モンベルポスト

フリーコール 0120-982-682／TEL 06-6538-5797
※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

ＳＤＧｓで、未来をつなぐ

三井住友海上は、安心と安全の提供を通じて、持続可能な社会の実現に取り組みます

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

SDGs（Sustainable Development Goals）とは

2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に掲げられた包括的で持続可能な社会の構築を目指す「持続可能な開発目標」のことです。

持続可能な地球環境	
関連する主なSDGs	主な取組
	・再生可能エネルギーの普及支援 ・自然災害リスクモデルにもとづくコンサルティング

安心して暮らせる社会	
関連する主なSDGs	主な取組
	・健康づくりの支援 ・先進技術を活用した利便性の高いお客さま対応

活力のある経済活動	
関連する主なSDGs	主な取組
	・次世代モビリティ社会への対応（自動運転車等） ・災害に強いまちづくりの支援

立ちどまらない保険。

MS&AD 三井住友海上

三井住友海上は、レジリエントでサステナブルな社会※をめざします。

※外部環境にしなやかに対応する、持続可能な社会

東商アソシエート株式会社　www.climbing-tosho.com　Tosho Associate

日山協山岳共済会のご案内

安全登山は登山者の努め、山岳保険は義務。

ご自身のために、ご家族のために。

日山協山岳共済会とは、

日山協山岳共済会とは公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会（JMSCA）とアライアンスを組み、安全登山の指導・普及を図り、山や自然が好きな人たちのための互助と自立を目指す仲間の集まりです。山岳共済会は、日本の山岳遭難・捜索保険の草分けで、5万人の会員を持つ最大級の山岳共済です。年齢・既往症に関係なくどなたでも入会できます。

2022年 山岳遭難の概況

警察庁生活安全局生活安全企画課
（ 2023年6月9日 ）

発生件数	3,015件	（前年対比 380件増）
遭難者数	3,508人	（前年対比 431人増）
死者・行方不明者	327人	（前年対比 44人増）

JMSCA 2024年版 日山協山岳共済会のしおり

WEBからもお申込みいただけます（ www.sangakukyousai.jp ）